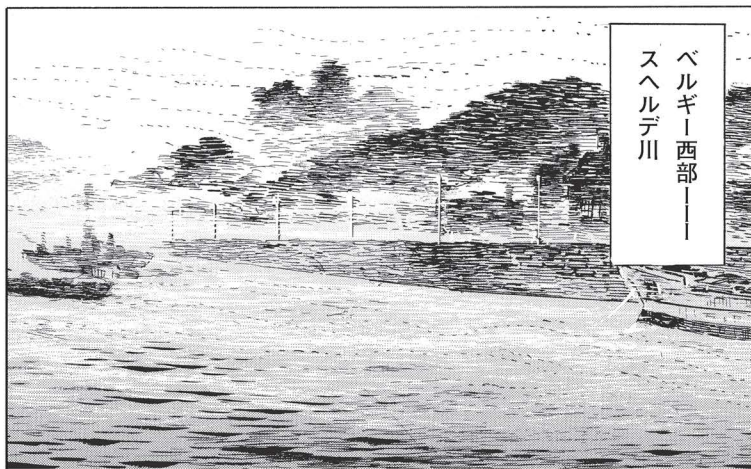
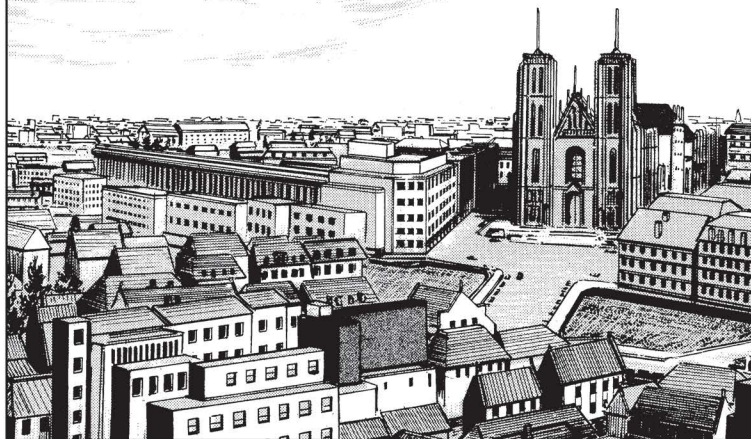




PART 5 安全対策は情報収集から

ブリュッセル—ベルギー—

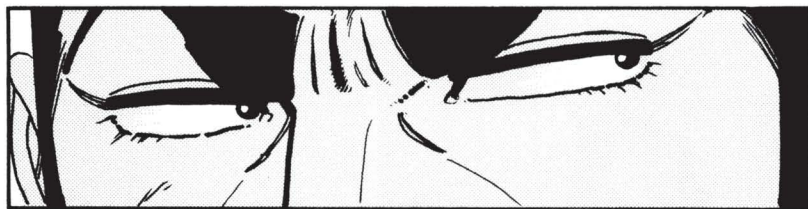


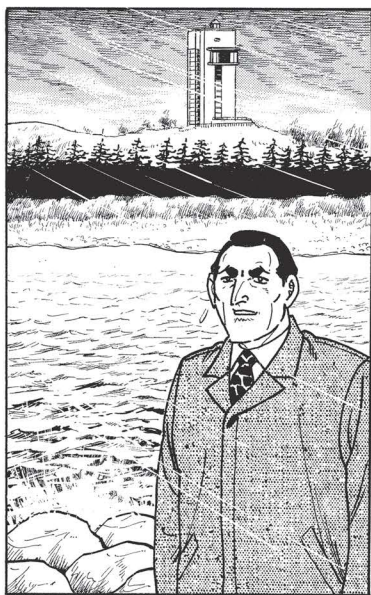
ベルギー—西部—
スヘルデ川



依頼を
聞く前に
尋ねたい……







5 情報収集

(1) 情報収集とは

(ア) 情報収集のポイント

危機管理において対策を考える際には

- ① リスクを発見・認識する
- ② 影響を予測する
- ③ 対応を選択する・実行する

という段階を経ることが一般的です。

海外安全対策を考えるにあたっては、上記の手順を念頭に検討作業を行うと、効率的に対策を考えることができます。

情報収集とは上記の①にあたり「海外安全対策を検討するにあたり、必要な情報

を集める」こと、と言えます。

海外安全対策では、情報収集はすべての基礎をなす部分になります。情報を集めること自体が目的ではありませんが、自ら必要と考える情報を積極的に入手していく心構えが必要です。また、継続的に情報を確認していくことで、ささいな変化にも気付くことができるようになります。従って、何らかの事件・事故などが起きた時だけではなく、普段から日常的に関連情報を確認していくことが、何よりも大切です。

(イ) どこから情報を収集するのか

情報収集は主に以下の①、②を中心に
行います。

- ① 外務省の発信する海外安全に関する情報
- ② ニュースなどメディアの公開情報
- ③ その他

外務省では海外安全に関わる情報を
様々な媒体を通じて発信しています。詳
しくは本マニュアルの

「2. たびレジ」(25ページ)

「3. 外務省海外安全情報」(41ページ)
に記載してありますが、外務省の発信す
る情報は、渡航先・赴任先の治安情勢な

どを把握するための最も基本的な情報で
すので、まずはここから始めることをお
勧めします。

外務省の情報で渡航先・赴任先の基本
的な情勢を確認した上で、日々のニュー
スなど一般に公開されている情報を組み
合わせることで、より精度の高い海外安
全対策を検討することが可能になります。

加えて、当該地域への渡航経験者や前
任の勤務者がいる場合には、より詳しい
情報が得られることもありますので、事
前に説明を受けると、海外安全対策をよ
り効果的なものとすることができるでし
ょう。

(ウ) どのような情報を収集するか

ご自身・ご家族の安全を守るための海外安全対策を考えるにあたって、海外渡航者・赴任者が必要とする情報は多岐にわたります。さらに渡航先・赴任先、期間・時期などによっても必要とされる情報の種類・量は異なってきます。従って、渡航者・赴任者が各々の状況に応じて、必要となる情報を見極め、自分から集める努力を行い、取捨選択をすることが必要となります。

ただし、一般的に以下の3つの事項に關しては渡航先・赴任先、期間・時期などを問わず、情報収集を通じて必ず理解を深める必要があります。

① 現地の治安状況

② 現地の文化・風俗・法律など

③ 現地における感染症の流行・風土病の有無、医療機関などの状況

(2) 現地の治安状況

まずは、現地の治安状況について情報収集を行います。これは渡航先・赴任先の治安状況を把握することで、現地にはどのようなリスクが存在し、どのようなリスクに晒される危険性があるのかについて理解するためです。

例えば、ここ最近発生した事件、テロなど治安関連の情報を確認します。何がターゲットになっているのか、日本人や

日本企業を狙ったものはあるのか、外国人などに対して危害を加える事件があるのか、などについて知ることは、犯罪の傾向や過激派グループなどの性質・活動状況・危険性等を把握するための有益な情報となります。

併せて、渡航先・赴任先の政治環境、選挙などの政治的なイベント、周辺国の状況などその国の治安情勢に影響を与える可能性が高い要素についても、情報収集を行い判断材料とします。

また、治安機関や消防などの能力・信頼性について確認することも重要です。日本とは異なり、治安機関等の対応能力が低い国も多数存在します。安全対策を

考える場合も、万が一、不測の事態に直面した場合の対処方針を考える際も、現地の治安機関等の能力・信頼性を事前に把握しておくことは重要です。



わかった……
的確な情報提供に
感謝する……

(3) 現地の文化・風俗・法律など

「郷に入りては郷に従え」ということわざが示す通り、現地における文化・風俗・法律などを理解することは、危険を避けるために大切な方法です。

諸外国においては、社会全体で宗教が大変重要な役割を占めている国は少なくありません。そのような国では宗教行事や宗教に関わる行動規範は大変重要で、文化・風俗・法律を構成する基本的な要素となつている場合もあり、宗教に対する侮辱や、服装の規定違反などは厳しく罰せられたり、罰せられないまでも周囲の反感をかうようなことにもなりかねま

せん。

また、日本の常識では犯罪とは考えられないような行動でも、諸外国では犯罪として通報されてしまう可能性もあり注意が必要です。

もちろんその国の文化・風俗・法律に関する事項をすべて調べることは不可能ですが、現地の「常識」を尊重し、そこに溶けこむような生活をするための準備をするという心構えが大切です。

(4) 感染症、医療機関、英文の処方箋

諸外国では鳥インフルエンザやジカウイルスなどの感染症が流行している国・地域があります。また、日本ではほとん

ど感染の心配はない風土病が存在している国・地域もあります。事前に流行の有無を調査し、予防接種の必要性や感染を防ぐ方法などについて対策を練っておくことが重要です。ジカウイルスの感染のように帰国後も注意が必要な病気もありますので、情報収集につとめ、危険性について把握しておく必要があります。

もし医療機関の受診が必要となった場合、現地の医療技術・設備・信頼性が日本とは異なる場合があることに注意が必要です。時には滞在国で対応ができず、近隣の国への移送が必要になる場合もあり得ますので、事前の情報収集を踏まえて保険に加入するなど策を講じることが必要です。

また、持病や継続的に服用している薬がある場合は、英文の処方箋を事前に準備し、渡航先・赴任先でも入手ができるように手配をしておきます。

(5) 家族の行動範囲

(商店、学校の安全対策)

日常生活において、自分や家族が利用する地域・場所の安全対策も重要な事項です。自宅や職場の安全対策と同様に、普段利用する商店街やスーパー、子ども通う学校のある地域や場所、自宅からそれらの場所に向かうためのルートなどについての安全性も確認します。これらの情報は、住居を選定する際の参考とし、

行動の仕方やルートを選択など、個別の対策を検討するための材料とします。

(6) 情報と情勢は変わりやすい

現地の治安情勢は、ちよつとした出来事で大きく変化することがあります。安全対策は環境によって内容が変わってきますので、治安情勢の変化には十分な注意が必要です。変化は漸進的な場合も、突発的な場合もあり得ます。普段から日常的に関連情報の収集を行い、情勢の変化に気付いたら、安全対策を見直すことが、身を守ることにつながります。



情報は変化する……
ベルギーの
天気のようにな……